

平成二十三年学力検査

全日制課程 A

第一時限問題 国語

検査時間 九時十分から九時五十分まで

「解答始め」という指示があるまで、次の注意をよく読みなさい。

注意

- (一) 解答用紙は、この問題用紙とは別になつています。
- (二) 「解答始め」という指示で、すぐ学科名と受検番号をこの表紙と解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (三) 問題は(1)ページから(6)ページまであります。(6)ページの次は白紙になつています。受検番号などを記入したあと、問題の各ページを確かめ、不備のある場合は手をあげて申し出なさい。
- (四) 答えはすべて解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (五) 印刷の文字が不鮮明なときは、手をあげて質問してもよろしい。
- (六) 「解答やめ」という指示で、書くことをやめ、解答用紙と問題用紙を別々にして机の上に置きなさい。

学科名
科
受検番号
第 番

国語

—次の文章を読んで、あとの一から六までの問い合わせに答えなさい。

著作権の関係で
画像処理を
施しています。

著作権の関係で 画像処理を 施しています。

(一) 晚鐘にふさわしい

とはどのような様子を表しているか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのか

(一) 晚鐘にふさわしいとはどのような様子を表しているか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのか

- ア 一日の終わりをしみじみと感じさせる様子
- イ 寺の鐘のようにありがたく聞こえる様子
- ウ 日中よりももの足りなく感じられる様子
- エ 離にあえない無念さがにじみ出ている様子

(二) 孤高をたのしむおもむき とあるが、その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのか

ア 周囲の自然破壊にも一匹だけ平然としている状態

イ 自然と一体化して情趣を深く味わおうとする境地

ウ 一人暮らしの自分を励ましてくれるような雰囲気

エ たつた一匹で鳴くことを誇らしく思っている様子

(三) ③にあてはまる最も適当なことばを、第三段落の文章中からそのまま抜き出して、八字で書きなさい。

(四) 聴く文化とはどのような文化か。それを要約して、五十字以上六十字以下で書きなさい。ただし、「多様な音」、「根底」という二つのことばを使って、「聴く文化とは、……」という書き出しで書き、「……

文化である。」と結びなさい。二つのことばはどのような順序で使ってもよろしい。

(注意) ・句読点も一字に數えて、一字分のマスを使う」と。

・文は、一文でも、二文以上でもよい。

(五) 筆者は、高尾山の静けさの中で過ごすなどのような気持ちになると述べているか。その最も適当なことばを、本文中からそのまま抜き出

(六) 次のアからエまでの文の中から、その内容がこの文章に書かれていることに最も近いものを選んで、そのかな符号を書きなさい。

- ア 東京の近郊では、今でも雨の音に静寂を感じることができる。
- イ 静けさは、大自然の多様な音が大きくなればなるほどきわだつ。
- ウ 日本人の多くは、静寂が奪われていく恐ろしさに気づいていない。
- エ 都市の住人は、大自然の多様な音が静けさを妨げると考えている。

二 次の文章を読んで、あとの一から六までの間に答へなさい。

【本文にいたるまでのあらすじ】

廃校が決まつた中学校の三年生のぼく（長谷川優太）は、膝の故障で得意なサッカーをあきらめ、モー次郎（山田幸次郎）とともに、姫と呼ばれている岡本暁人（おかじょうひと）が部員のいない水泳部に入部する。姫は県の記録保持者だが、突然水泳部をやめると言い出し、顧問のウガジン（宇賀神先生）は怒つて部の解散を命じてしまう。その後、水泳部に戻りたいと申し出た姫に、ウガジンは復帰の条件として、三人でのトライアスロン大会への参加を提示する。

〔本文〕

「じゃあ、今日のところは帰りますね。失礼しました」姫が職員室の出口へ向かつた。ぼくとモー次郎も続く。ところが、ウガジンがトライアスロン大会の申込書をひらひらさせながら追いかけてきた。「ちょっと待て、おまえら。これをよく見てみろ。この第一回桜浜ジュニアトライアスロン大会はな、たくさんのお参加者を募るためにいろんなローカル・ルールがもうけられているんだよ」「ローカル・ルール？」なんのことだかわからず、ぼくは聞き返した。「簡単に言えば、この桜浜の大会だけの特別ルールだ。今大会にはそのローカル・ルールのひとつとしてリレー部門があるんだよ。スイム、バイク、ランに一人ずつ出て、リレーをするんだ。つまり、三人ひと組のチームとして参加できるんだよ」「なるほど、それならばおれがスイム担当で出でやいいつてわけですね」姫がさつそく飛びついた。「さすが岡本。話のみ込みが早い」ウガジンは拍手で姫を褒めたたえる。姫はモー次郎の肩をたたいた。

〔2〕

「お、優太」いきなり姫に腕をつかまれて、職員室の外まで連れていかれた。「痛いな。なんだよ」姫の手を振りほどく。「落ち着けよ。冷静になれって。いいか？ おれの水泳部復帰のために優太を巻き込んだのは悪いと思ってるよ。でもな、ウガジンはおれの復帰の条件として、トライアスロン大会への参加を言つてきてるだけなんだよ」「うん？」「つまりな、優勝しなきやだめとは言つてないだろ」そう言わればそうだ。「おれたちはトライアスロン大会に参加すればそれでいいんだよ。優太はだらだら走つてくれるだけでいいのさ。そもそも、トライアスロン大会は全中のあとなんだぜ。全中に出られさえすれば、そのあとのトライアスロン大会でビリを取ろうが、途中で棄権しようが、関係ないつてことだよ。学校がなくなるんだがなんだか知らないけど、卒業しちまうおれたちには関係ないよ。おれたちはただ出ればいい。わかったか」

姫の言つてゐることはわかつた。でも、迷つた。たとえランパートだけにしても、膝の悪いぼくがトライアスロン大会に出るわけにはいかない。クラスのやつや、サッカー部のやつらに、出場することを知られたら都合が悪い。なんだよ走れるんじやないか、なんて後ろ指さされることになる。ぼくの膝は壊れたことになつてゐるのだ。「やつぱり無理だよ。

膝が悪いから」⁽¹⁾ すると、姫の顔から表情がさつと消えた。視線

はぼくの目に固定されたまま一ミリも動かない。そして、その瞳がぞくつとするほど冷たいのだ。一瞬にして鳥肌が立つた。⁽²⁾ (中略)

〔3〕 「おまえさ、もう猿芝居はやめろよ」 冷たくて乾いた声だった。「なにが芝居なんだよ」「膝が悪いなんてうそをつくのはやめろ」一瞬、息が止まった。「うそじやないよ」「本当は痛くなんかないんだろ」「痛いけど我慢してゐるんだよ。痛くないふりをしようつて努力してゐるんだ」

〔2〕 「ちがうだろ。痛いふりをする努力をしてゐるんだ」「そんなことないよ」「言い訳はしなくていいぜ。前から思つてたんだけどさ、うそついてるのミエミエだぜ」「いいかげんなこと言うな」「いいかげんなのは優太だろ。膝が痛い、痛いって言うわりにはよ、帰りのホームルームが終わつた瞬間にダッシュで帰つてるじやん。おかしいだろ。というかさ、きっとクラスのやつらもおかしいつて気づいてるぜ。気づいてないのは優太自身だけじゃないのか」⁽³⁾ 「なあ、優太。おまえ、なんか逃げたいことがあるんだろ。そのため膝が痛いつていう言い訳を用意してあるんだろ。ちがうか」「そんなんじやないよ。本当に痛いんだ」「去年からおまえには水泳部に来てもらつてるわけだけどよ、おまえのタイムどんどんよくなつてたぞ。どつか故障してるとは思えないくらいにさ」「適当に話を作るなよ」「おれタイム計つてたもん。それ

に、おれぐらい水泳を長くやつてれば、泳ぎ方を見ただけでも故障を抱えてるかどうかくらいわかるもんさ」⁽³⁾ 思わずあとずさりした。姫は今までぼくの膝のうそを見抜いておきながら、ずっと黙つていたのか。「ぼくは本当に膝が痛いんだ。マジで走るのは無理なんだ」「なんでもかんでもすぐに無理だ、無理だつて言いやがつて」姫がにじり寄つてくる。

〔4〕

「どうしたおまえら。いつまでも廊下で」がらりと職員室のドアが開いて、ウガジンが出てきた。助かつた。ウガジンに泣きつく。「先生。やつぱりランパートは無理です。トライアスロンには出られません」「でもなあ……」「なんなら、ぼくが必ずかわりのランパートを探します。それじゃだめですか」姫の視線を頬に感じつつ懇願した。ウガジンがしぶしぶ答える。「優太がちゃんと責任もつて探すというんだな」「はい」「それならいい」「ありがとうございます」(中略)やつと安堵の息をつく。横を見ると、姫が冷ややかな目でぼくを見ていた。「うそつき」とその目は語つていた。(関口尚『空をつかむまで』による)

(注) ○①～④は段落符号である。○トライアスロン=一人の選手が水泳・自転車・マラソンの三種目を一日で行い、総計の時間を競うレース。

○全中=ここでは、全国中学校水泳競技大会のこと。

(一)⁽¹⁾ 最初から出るつもりはなかつたとあるが、その理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 自分で勝手に水泳部をやめておきながら突然復帰したいという気

まぐれな姫には、もともと協力する気持ちがなかつたから。

イ 県の記録保持者だからといって、姫を水泳部に戻すために自分たちまで巻き添えにしようとするウガジンに腹が立つたから。

ウ 膝が悪いことになつてはいる自分が大会に出て走つたりすると、周りからうそをついていたと悪口を言われる心配があるから。

(二) エトライアスロンにランパートがあることは知つていたので、運動を禁止されている自分では力になれないと思つていたから。
ウ 鳥肌が立つたとあるが、ここではどのような気持ちを表しているか。その最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 失望

イ 興奮

ウ 恐怖

エ 後悔

(三) 本文中の「1」から「3」のそれぞれにあてはまる最も適当な文を、次のアからウまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 血の気がさつと引くのが自分でもわかつた。

イ ぼくは左膝をさすつた。

ウ 苦笑いで断つた。

(四) この文章に描かれている姫の人物像の説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 人を見下したような態度をとつてはいるが、友達思いで気だての優しい人物

イ 親友のぼくやモー次郎にさえも気を許さず、自分の意志を貫こうとする人物

ウ 自分の感情や本心を決して表に出さず、周囲には不可解な印象を抱かせる人物

エ 軽い調子でふるまう一方で、ぼくの偽りや後ろめたさを鋭く見抜いている人物

(五) (3) 思わずあとずさりした とあるが、このときのぼくの心情の説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア まだ膝も治っていないのに姫に出場を強要されてとまどつている。

イ 姫に膝が治っているという証拠を突き付けられてたじろいでいる。

ウ 知らないうちに姫がタイムを計つていたことを不快に思つてはいる。

エ 姫が自分のうそをみんなに言いふらすのではないかと恐れている。

(六) (3) 第四段落におけるぼくの心情の説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 先生が声をかけてくれたおかげで姫の追及から逃れることができたが、膝のことを見透かされているという不安をぬぐえないでいる。

イ 姫に問い合わせられて不利な立場に追い込まれたが、廊下に出てきた先生が二人の間に入つてくれたので冷静さを取り戻している。

ウ 情けない人間だと姫に軽べつされているという思いから抜けきれず、これからも今までどおり親友でいられるか気になつてはいる。

エ 自分の代役を探しあえすれば大会に出場しなくてもよいという見通しが立ち、これで姫から解放されると救われた思いになつてはいる。

三 次の①から④までの文中の傍線部について、漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

① 彼女は将来を囁きされている。

② 命の大切さについて懇々と諭す。

③ 美術館はユウビン局の隣にあります。

④ 専門家の意見をウケタマワる機会があつた。

四 次の『花月草紙』の原文と現代語訳とを読んで、あとの(一)から(四)までの問い合わせに答えなさい。

〔原文〕

ただうどは、漁船といへば、同じやうにつくるものと思ふべけれど、
こはさつくりても、おのづからよくととのひて出来しもあり、ここはよ
くかしこは悪しきもあり、打ち見てはいかにもよきが、乗り得てみれば違
ふもありて、一つも同じからぬものぞかし。（中略）むかしある人が、
人を見て、いかにもよき人なり、いさきかも悪しきところなきと思は
ば、まづ思ひかへして、聖は知らず、かしこき人とも、いづこもくま
なくよき人はなきものなるを、さ見ゆるはわが心のくらみしなり。まづ
その人の悪しき処々よく知りてののちに、あげ用ひ給へ。」と、何が
しがいひしと聞きしが、翁が船に乗るも、いまいふごとして悪しき処々
を知れば、悪しきかたへは波かぜうけず、弱きには波かせある日沖を
乗らでありしかば、つひに危きをもまぬかれし。

〔現代語訳〕

素人は、漁船といふと、皆同じようにつくるものと思つてゐるようであるが、これは同じようにつくつても、その中にはおのずとよく整つてできるのもあり、またこはよいがあそこは悪いというのもあり、ちよつと見るといかにもよいが、乗つてみると予想に反するものもあつて、
③（中略）昔ある人が、「人を見て、いかにもよい人である、
少しも欠点がないと思うなら、まず考え方をして、聖人ならいざ知らず、
賢人といつても、どこも残らずよい人はいないものであるから、そう見
えるのは自分の心がくらんでいるためである。まずその人の欠点をよく
知つた後に、登用しなさい」と、だれそれが言つたと聞いたが、私が船

に乗るのも、今言つたように船の悪い所を知つてゐるので、悪い方へは波風を受けず、弱い船では波風のある日に冲に出ることをしなかつたら、とうとう今まで危険な目をまぬがれたのである。

(一) ① 一つも同じからぬものぞかし の現代語訳として □ にあて
はまる最も適當なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのか
な符号を書きなさい。

ア 一つ一つがよく似ている イ 一つも満足にはできていない
ウ 一つだけ異なるものがある エ どれ一つとっても同じではない

(二) ② さ の内容として最も適當なものを、次のアからエまでの中から選
んで、そのかな符号を書きなさい。
ア 欠点がないわけではないよう イ まつたく欠点がないよう
ウ 賢人であると評判が高いよう エ 賢人の仲間に入るよう
に、そのかな符号を書きなさい。

(三) ③ 現代語訳の 残らず といふことを原文では何といつてゐるか。
それをそのまま抜き出して書きなさい。

(四) この文章の内容として最も適當なものを、次のアからエまでのなか
ら選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 船には人と同様に長所も欠点もあるので、それらを熟知してその

船に合つた乗り方をすることが大切である。

イ 航海では予想外の危険に出くわすことがよくあるが、それを回避
するためには経験を積むことが大切である。

ウ 同じようにつくつた船でも違ひがあるよう、人それぞの持ち
味を認めることが大切である。

エ 人には外見からはわからない意外な一面があるので、その人の本
質を見抜くことが大切である。

（問題はこれで終わりです。）